



有形文化財（彫刻）

15. もくぞうやくしによらいざぞう 木造薬師如来坐像 く 1 軀

■指定年月日 昭和34年12月15日(1959)

■像 高 98.5cm

■所在地 高屋町

■所有者 やくしじ 薬師寺（薬師寺奉賛会）

両腕の肩から肘までと、頭と胴を、1本の木で造り、内側を空洞にする作業は行っていない。この製作の仕方は、平安中期の素朴さをもっている。現在珠洲市に残っている仏像の中では最古のものといわれている。

両手の肘から先の手首までと、両膝の部分一本の横木で造り、は 矧ぎ付けてあるが、後世に補修されたものである。

薬壺を持っていたと考えられる両手指もなくなっている。

保存が良くなかったので、全体的に荒れ損じていることが惜まれる。

たかや 高屋町は昔、高屋浦と云い、珠洲の外浦では最良

の港であり、ここに刀禰職（村役人）を家業とした、刀禰家があった。この仏像は、港の有力者刀禰氏によって尊崇護持されてきたので、「刀禰薬師」と呼ばれていた。のちに日吉神社に移座し、拜殿に安置されていたが、昭和38年（1963）夏、たかお 高雄山薬師寺が創建され、その本尊となっている。